

| 科目分類 | 専門職の教育 | | | 開講学科 | 看護学科 |
|---|--|---------|----|------|-------|
| 科目番号 | 学年 | 担当セメスター | 区分 | 単位数 | 授業時間数 |
| 11089 | 2 | 後期 | 必修 | 2 | 90 |
| 授業科目名 (英文) | 基礎看護援助実習Ⅱ（看護過程実習） (Clinical Practices in Fundamentals of Nursing Ⅱ) | | | | |
| 担当教員名 | ○横山美樹/島田多佳子/伊東美奈子/末永由理/中山純果/嶋澤奈津子 篠木絵理/富岡晶子/高山裕子/岡田弘美/林世津子/阿達瞳/山崎千寿子 筒井千春/松尾まき/阿部桃子/山之井麻衣/伊東真理/大金ひろみ 蓮井貴子/槌谷亜希子/橋元千久佐 | | | | |
| 授業の概要及び到達目標 | | | | | |
| <p>本科目では、学生が臨地において患者を受け持ち、対象との対人関係を築くとともに、既習の知識、技術を用いて、対象者の発達段階、生活習慣、健康レベルなどの背景から身体的・心理的・社会的状況をアセスメントする。そして対象の課題・問題、目標を明確にし、看護援助を計画し実施するという一連の看護過程を一人の患者を対象に実践する。さらに医療の協働の場を体験し、看護の役割、機能について再考する機会とする。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象者に関心をもち、理解を深めることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の対象者に関心を持って関わることができる。 2) 関わり等を通して、対象の理解を深めることができる。 2. 既習の知識、技術を用いて対象者のアセスメントをし、アセスメントを基に、対象者に必要な援助計画を立案し、実施・評価できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者にとって優先度の高い看護問題について、バイタルサイン測定、必要なフィジカルイグザミネーション、日常生活援助を看護師と共に提供しながら、アセスメントを行うことができる。 2) アセスメントを基に援助計画を立案し、看護師と共に実施することで、合目的・安全・安楽・自立の視点から評価ができる。 3. 看護実践を通して医療の協働・連携について知り、看護の目的・役割・機能について考えを深めることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者への実践を通して、他職種との協働・連携について理解できる。 2) 看護の目的・役割・機能について、協働・連携の学びとつなげて理解できる。 4. 看護実践の場において求められる倫理的態度を養うとともに、主体的に学習できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護を実践する者として倫理的に配慮した行動がとれる。 2) 自らの実習での実践を評価し、次の課題を明確にし、取り組みの方向性を示すことができる。 3) 実習における経験を共有し、相互に学ぶことができる。 | | | | | |

| 準備学習等 | | | | | | | | | | |
|---|--|---------------------------------|----|---------|------------------------|----|---------|--------------|----|---------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護援助方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、クリティカルシンキングⅡで学習した内容を復習して実習に臨むこと。(学内実習時間以外の復習の必要時間は、学生の状況に応じて違います) ・看護学実習要項、基礎看護援助実習Ⅱ実習要項をよく読み実習に臨むこと(最低1時間)。 ・実習後は評価表や面談で明らかになった知識的な課題部分について、教科書、参考書、授業資料等を用いて復習しておくこと。 | | | | | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 実習への取り組み状況(実習態度、実習記録等実習内容)の、学習内容別評価基準に基づいた評価90%と最終レポート10%とし、総合的に評価する。 | | | | | | | | | |
| テキスト | <ul style="list-style-type: none"> ・「NANDA-Ⅰ看護診断2018-2020」(T.ヘザー・ハードマン:医学書院) ・「基準看護計画 第3版」(矢田昭子・秦美恵子編:照林社) | | | | | | | | | |
| 参考図書 | <ul style="list-style-type: none"> ・「はじめてのフィジカルアセスメント」(横山美樹:メヂカルフレンド社)※ ・「基礎看護技術」(香春知永・齋藤やよい編:南江堂)※ 他 基礎看護援助方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、クリティカルシンキングⅡ、疾病治療各論で使用する教員作成資料、テキスト類 | | | | | | | | | |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・本科目を履修するには、基礎看護援助方法Ⅰ・Ⅱ、クリティカルシンキングⅡの単位修得が必要である。 ・各教員のオフィスアワーは、履修案内の看護学科「オフィスアワー」の項を参照してください。 ・卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。 ・実習における日々の記録、レポートについては、コメントを記載して返却するので、以降の学習、実習で活用すること。 | | | | | | | | | |
| 授業計画 | | | | | | | | | | |
| <p>実習日数</p> <table> <tr> <td>オリエンテーション実習・看護技術演習・臨地振り返り(学内実習)</td> <td>3日</td> <td>(全担当教員)</td> </tr> <tr> <td>看護過程の展開・日常生活援助実習(病棟実習)</td> <td>6日</td> <td>(全担当教員)</td> </tr> <tr> <td>実習のまとめ(学内実習)</td> <td>1日</td> <td>(全担当教員)</td> </tr> </table> <p>実習場所 東京通信病院、NTT 東日本関東病院、昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院、大森赤十字病院</p> <p>*詳細は基礎看護援助実習Ⅱ実習要項参照のこと</p> | | オリエンテーション実習・看護技術演習・臨地振り返り(学内実習) | 3日 | (全担当教員) | 看護過程の展開・日常生活援助実習(病棟実習) | 6日 | (全担当教員) | 実習のまとめ(学内実習) | 1日 | (全担当教員) |
| オリエンテーション実習・看護技術演習・臨地振り返り(学内実習) | 3日 | (全担当教員) | | | | | | | | |
| 看護過程の展開・日常生活援助実習(病棟実習) | 6日 | (全担当教員) | | | | | | | | |
| 実習のまとめ(学内実習) | 1日 | (全担当教員) | | | | | | | | |